

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域とふれあいながら一人ひとりが家庭的な雰囲気の中で、その人らしく生活が送れるように支援する」を理念としてあげ実行している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には必ず理念を伝え理解していただき、又、職員会議・ミーティング時には話し合いの機会をもち、日々意識づけをして取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には訪問時やホーム便り等で伝えている。又、地域住民に対しては、ホーム見学時にわかりやすく説明したり、パンフレットを活用したりしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩に出かけた際には、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、花や野菜、山菜のおすそ分けを頂いたりしている。又、保育園へ訪問し太鼓の練習を見学、運動会に参加、園児によるおゆうぎ会の慰問や地域の行事等に積極的に参加し交流を図っている。当ホームの夏祭りには、地域住民に呼びかけ多くの方に参加していただいている。敬老会には近隣の高齢者に呼びかけ、遊びに来てもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用料金や起こりうるリスク等に説明をしている。また、利用者の状態変化による退去に至る場合は、家族と話し合いを持ちその都度相談に応じている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時利用者から（困ったこと、してほしいことなど）意見を聞き、言葉や態度からその思いを察する努力をし、運営や日々のケアに活かされている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時や家族たよりにて利用者の状況報告をし、個別のアルバムを作成し、ホームでの様子や行事等の様子を家族と一緒に見てもらっている。体調の変化、急変時等は電話できめ細かく報告している。金銭については面会時に小遣帳の明細を見てもらっている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情及びご意見箱を玄関に設けている他、面会時に問いかけ気軽に何でも話してもらえる雰囲気作りに全職員で取り組み努力している。家族等からの意見はミーティング等で話し合い反映させている。入所時に県、役場の窓口の説明を必ず行っている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や必要に応じて随時意見交換を行い、運営に反映させている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の介護度が高く、起床、食事等に介助が必要とされる利用者が多いので、早朝の時間帯にパート職員を増員し、朝のケアにゆとりをもっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心掛けている。新人職員が入った場合は、利用者に紹介するとともに、約1ヶ月間、別の職員が付き添って指導し、一緒に生活する中でコミュニケーションを多くとり、なじみの関係になれるように心がけている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習会や研修会には、なるべく多くの職員が受講できるようにし、研修報告は発表し、職員間でも随時話し合いをしている。また、全職員が閲覧できるようにしている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のグループホーム連絡会等で同業者との交流会に積極的に参加し、意見交換や交流をもつことにより、サービスの質の向上を目指している。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の休憩時間、場所を設け気分転換を図られるようにしており、管理者は日常や面談時に職員のストレスや悩みを把握するように努めている。また、社内旅行で気分転換を図っている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、頻繁に職場に来ており、利用者によく声掛けをし一緒に過ごしている。また、職員の勤務状況を把握し、心身の健康には留意している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があった際は、必ず本人、家族と面談し不安や困っていること、家族の思い等を受け止め安心してもらえるような関係づくりに努めている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られる家族のほとんどが早急な対応を希望されており、本人や家族の思い、状況等を考慮し入居の相談に応じている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらい、職員、利用者とは会話を楽しんでもらえるよう努め、納得した上でサービスを利用してもらっている。また、職員は入院中の本人に何度も面会し、顔なじみの関係をつくるなどしたり、やむを得ずすぐ利用した場合は、家族等の面会を多くしてもらい安心感をもってもらうようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人を自分の親、祖父母であるという気持ちで、一緒に食事をし、洗濯物をたたんだり、食器をふいたり、新聞折等協働しながらコミュニケーションを多くとり家庭的な雰囲気の中でおだやかな生活ができるような場面作りをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者に対して、家族と同じような思いを持ちケアを行っている。家族の面会時には利用者の様子を伝え、家族からも情報を得て、協力関係が築けている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見極めながら、お盆、正月に帰宅し家族と一緒に過ごしたり、ホームの夏祭りに家族の参加を呼びかけ、一緒に楽しんでもらえるような働きかけを心掛けている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している床屋へ行ったり、なじみの信頼している病院への受診の継続、住み慣れた地域へのドライブなどしている。また、友達や近所の知人がホームに面会に来てくれることも多い。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日頃から注意深く見守り、利用者同士の関係を全職員が共有できるようにしている。コミュニケーションを多くとるようにし、利用者間の関係がスムーズになるよう努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方へ行事に遊びにきていただくよう誘ったり、その後の様子を電話でたずねたり、入院中の方には職員が面会に出かけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で触れ合い、把握に努めている。また、意思疎通が困難な方には家族等から情報を得たり、表情、態度、時間帯などからくみ取るようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等に、生活歴等を把握することの意味と重要性を十分に説明し、聴き取るようにしている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの水分量、食事量、排泄の時間帯、バイタル、起床就寝の時間等を記録し、1日の生活リズムや体調変化があるかを把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの意見、本人の状態等から職員によるケアカンファレンスを行い、ケアプランを作成し、3ヶ月毎の見直し、急変時等には随時見直しをかけている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の見直し、また、期間にとらわれず本人の変化に応じて見直しを行う際には、随時ケアカンファレンスを行い見直しをかけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに毎日記録している。また、通院のみの記録も別途に残し、健康状態の変化や通院状況が分かりやすく、見直しに活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育園との交流があり、園児の太鼓練習の見学に行ったり、慰問（おゆうぎ会）に来てくれる。また、ボランティアによる手踊りや消防署の協力で年2回の防災訓練等を実施している。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスはまだ活用していない。		今のところ本人や家族の希望は聞かれていないが、今後、希望する方には支援を検討する。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者の入退所の報告や退所後の相談等必要に応じて相談に応じてもらっている。権利擁護を利用している方もおり、毎月訪問していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を尊重し、これまでのかかりつけ医での受診を支援している。定期受診の他急変時には協力医に24時間いつでも対応してもらっている。また、受診状況はその都度、本人や家族に報告している。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関及び、本人かかりつけ医から認知症に対する指示や助言をしていただいている。必要に応じ家族と相談のうえ受診できるよう支援している。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の看護師によく相談し、助言してもらっている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には、家族と共に必ず立会い病院側と情報交換をしている。入院中は職員が何度も見舞うようにし、本人、家族が安心できるよう支援している。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアには対応していないが、重度化については日常的な健康管理や急変時の対応については、家族やかかりつけ医と繰り返し話し合いが行われている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ること、出来ないことを職員で話し合い、対応が可能なこと、困難なことを見極めている。家族やかかりつけ医と連携をとりながら取り組んでおり、急変した場合はすぐ対応してもらえる体制になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いを概ね把握しており、折に触れ食べたいメニューなど聞くようにしている。状況や意思等に応じて食事前後のテーブル拭きや食器拭き等、職員と一緒にやっている。食事介助をさりげなく行い、食べこぼし等は気にせず食後に職員がテーブルの下を拭き掃除をしている。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	午前、午後のおやつ時や入浴後の水分補給時は、なるべく本人希望の飲み物を出している。たばこについては職員が見守り他の利用者の迷惑にならないように空気清浄機を設置している。		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄チェック表を記入し、排泄時間や習慣を把握しており、本人に合わせてトイレ誘導をし排泄を促している。また、おむつ使用の方は、その人に合わせた定時や随時におむつ交換をしている。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、午後に行っている。一人ずつゆっくりくつろいだ入浴を心がけており、入浴を楽しむにしている方が多い。温度調節、順番等も利用者の希望を取り入れている。介護度の高い利用者には職員2人で介助する等安全面にも配慮している。		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを概ね把握しており、日中の活動を促し生活のリズムを整えるようにしている。寝付けない利用者には、職員が話し相手になったり、テレビを見たり一緒に過ごし安心して就寝してもらえるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や関心のある事など把握するように努めており、個々に応じて地域の行事に参加したり、大相撲の星取りに参加して楽しんでいる。また、行事やレクリエーション等を利用者と相談しながら行っている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者には小額を所持してもらい、ショッピングの際に本人が支払うようにしている。また、ホームで保管している方であっても、外出時にお金を手渡し本人が支払うように支援している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の身体、精神状態に合わせて日常的に園庭に出たり、散歩したり外の空気に触れ季節を感じてもらうように支援している。本人の希望によりなじみの床屋やショッピングに出かけている。車椅子の方も戸外に出かけることを心がけている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	生まれた地や住み慣れた家に行きたい・お盆の墓参りをしたいなどの利用者の思いが出された時は、家族に相談し外出や外泊などの働きかけをしている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ、電話の設置場所に誘導し電話をかけてあげたり、郵便物を手渡し読んであげるなど、家族や知人からの手紙や電話を歓迎している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問していただけるように、職員全員が声掛けをし笑顔で接するように努めている。訪問時間は決めておらず、訪問に来た人がゆっくり話せるように居室に案内し、お茶等を出し家庭的な雰囲気支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が勉強会等で理解しており、拘束のないケアを行っているが、必要と思われる方には家族への説明を行い同意を得ている。家族からの希望でベット柵を増やし使用している方の同意は得ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階建ての2階部なので階段からの転落防止の為、家族からの同意を得て入り口に鍵を掛けている。鍵は利用者も簡単に開けられるようになっておりカチャと音がするので外出を察知し見守りをしている。外出傾向がみられた時は職員と一緒に散歩したり、買い物に出かけている。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に昼夜を通して、利用者の見守りを重視している。記録も利用者の側で記入し、台所には職員が2人以上入らず、必ずホールに職員がいるように心がけて利用者の安全に配慮している。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は介護員室に個別に保管している。洗剤、薬品、刃物等は保管場所や管理方法を決め実行している。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメントマニュアルを作成し、職員が勉強会で学び、また、いつでも見ることが出来るように目の届く所に置いている。ヒヤリハット、事故報告書を整備し、適切に記録し再発防止に向けた話し合いを行っている。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルがあり、職員は内容を理解している。消防署員による救急救命（心肺蘇生法・AED）の訓練を行っている。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと、通報、避難、消化の総合訓練を実施しており、近所の方にも協力してもらえるように働きかけをしている。また、救助袋を用意しいつでも持ち出せるよう目の届く所に置いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>入居時に起こり得るリスクについて、家族等に説明し理解してもらっている。状況変化に応じて随時見直しを行い家族に説明している。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日のバイタルチェック、排便表、食事・水分チェック表、健康観察にて体調の変化や異常の早期発見に努め、かかりつけ医とも連携をとり早急な対応をしている。</p>	
71	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個別の服薬ファイルを作っており、職員は内容を理解している。薬には名前を記入し、朝・昼・夕と色分けをして間違いないように対応している。症状の変化については記録を残し、早急に通院対応を行うなどしている。</p>	
72	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェック表を記入しており、一人ひとりの排泄パターンを把握し下剤等で調整をしている。また、乳製品や繊維植物等で食事療法や運動、腹部マッサージも取り入れ便秘予防に取り組んでいる。</p>	
73	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後のうがいや歯磨きの習慣ができています。本人が出来ない場合は、職員が一人ひとりに応じたケアを行っており、口腔内のチェック、入れ歯の手入れ等を実施している。異常の見られた際は歯科受診している。</p>	
74	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの食事・水分摂取量のチェック表を毎食後に記入し、毎回確認している。食べる量や栄養バランスは概ね把握している。また、きざみ食にしたりなど工夫して個別に合わせた支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルを作成し、職員は内容を理解して実行している。また、利用者・全職員共にインフルエンザ予防接種の実施やノロウイルス対策としてペーパータオルを使用する等予防に努めている。		
76 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生マニュアルを作成し、台所の掃除、ふきん、まな板、包丁、食器、冷蔵庫の中等毎回消毒し、衛生管理を徹底している。食材も常に点検しており注意を払っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者が外出時に雨や雪で濡れないようになっており、明るく広々とした空間になっている。玄関前には花壇があり花やミニトマト・いちご等を植え収穫を楽しんでいる。		
78 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には食卓やソファがあり、絵画を飾る等家庭的な雰囲気になっている。台所からの音やにおい、その時々のお山菜や野菜、果物等を取り入れたり、花を飾る等、季節感を取り入れる工夫をしている。また、カーテンで日射しの強さの調節をおこなっている。		
79 ○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファが置かれており、必要に応じて畳も用意し家庭的な雰囲気を作り、ゆったりとテレビを見たり、お茶を飲んだり、余暇活動を行ったりし工夫をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には、使い慣れたなじみの家具や寝具等を持ってきてもらうよう家族に積極的に働きかけている。家族の写真を飾ったり、一人ひとりに合った居室作りをしている。</p>		
<p>81</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>24時間自動換気システムを設置しているが、トイレや脱衣室は換気扇を回し、各居室やホールは窓を開け空気の入替えをしている。温度湿度計を設置し暖房等により温度調節をしている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや浴槽、廊下には手すりを設置し、浴槽の中や床には滑り止めマットを敷き、利用者の安全に配慮している。利用者の身体状況に応じ、モーターベットやリクライニングの車椅子を使用している。</p>		
<p>83</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室に表札をかけ、また、本人が分かるような目印をつけたり、場所間違いを防ぐための工夫をしている。</p>		
<p>84</p> <p>○建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>居間から眺められる場所に花壇があり、花や菜園を眺めて楽しんでいる。また、自由に出入りができ玄関先にテーブル・イスを設置し外でおやつを食べたり、日光浴を楽しんでいる。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)